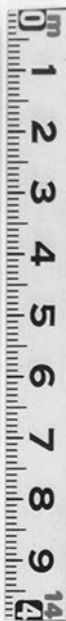


常盤大衆

第一號

五月號

第一卷



(1)

祝 發 刊		
星 一	金 成 通	安 島 重 三 郎
本 多 文 雄	高 岡 唯 一 郎	木 村 清 治
小 峰 滿 男	中 崎 俊 秀	白 井 博 之

(いろは順)



女中までニコニコ

近頃電氣の笠から臺所道具、食器など皆改善されたので奥様嬢さんは勿論女中までがニコニコ

裝飾電氣笠 一圓より
スタンド 三圓八十錢より
洋食皿(二打) 三圓五十錢より
其他電氣器具、食器、食料品何でもあります

高 野 分 店

福 島 縣 平 町 田 町 (電話 一五五)

火事だ！ 警鐘が鳴る

常磐大衆 昭和三年「五月號」

目次 昭和三年
五月一日發行

- ◇ 鐘が鳴る、鐘が鳴る青年よ猛然と起て……………(五)
- ◇ 爲政家よ眼を開け……………古和口虎雄(六)
- ◇ 金と命と思想問題……………星 一(八)
- ◇ 小名濱築港と其將來……………白井博之(九)
- ◇ 磐城教育界の巨星新星……………青山白水樓(二)
- ◇ 銀行合併是非……………安島重三郎(三)
- ◇ 常磐地方に於ける労働運動……………横山 顯(三)
- ◇ 茨城の新しき村兄弟村の記……………生天目健三(七)
- ◇ 加波山籠城……………中村兵衛(四)
- ◇ 茨城縣の政界はどう動く……………水城學人(六)
- ◇ 春宵雜記……………西村文則(五)

本紙の使命は消防手

熱血政治家の出現を希望

- 其出現を熱望す……………法學士 沼田 照義
- 偉人を想ふ……………前代議士 川崎 巳之太郎
- 出現は自然の勢ひ……………代議士 中崎 俊秀
- 勇敢な政治家出てよ……………風見 章
- 出現を要望す……………代議士 小峰 満男
- ◇ 常磐炭礦の覇權は誰が握る……………一 記 者(二)
- ◇ 小名濱大敷網問題の真相……………一 記 者(三)
- ◇ 社會は惡人許りの寄り合ひか……………一 記 者(四)
- ◇ 異常の發展せる植田水電……………一 記 者(五)
- ◇ 茨城縣の銀行界五十、常磐王國……………一 記 者(六)
- ◇ 村農會は廢止すべきか……………諸 名 士(七)
- ◇ 意氣と信念に生きよ……………縣會議員 鷺 清 章(四)
- ◇ 政治經濟記事滿載……………



鐘が鳴る。鐘が鳴る。 青年よ。猛然と起て

現在の社會は全く行き詰つてゐる。政治家も學者も實業家も皆行き詰つてゐる。見よ、大政黨と云はれてゐる所の政友會も民政黨も國家永遠の大計なく、無爲無策にして其醜狀を國民の前にさらして居るではないか。學者も吾人の生存に大なる幸福を與へず、實業家また眼前の小利にのみ汲々として産業の大策を忘却してゐるではないか。

松島事件の如き不正にのみ没頭してゐる政黨、銀行を潰し預金の拂戻しをなさずして平氣でゐる實業家、失業者續出して何等對策を講ぜず知らぬ顔してゐる當局、これに對し國民は如何なる感を抱き居るや、表面平靜なるが如きも内心不平不満の空氣は到る所充滿し、何時如何なる不祥事勃發するか全く豫測出來ぬ狀態にある。

茲に於て吾人は國家の前途を憂慮し、信念と熱狂とを持つて戦ひたる古英雄を省み、吾人の意志にして金鐵の如きものあらば、天下何事と雖も不可能の事を想到し、吾人微力をも願ひず常磐の一隅より敢然起つて「政治家よ醒めよ、學者よ醒めよ、實業家よ醒めよ而して國家永遠の大計を樹て我等國民に幸福を與へよ」と警鐘を亂打せんがために「常磐大家」は生れたのである。常磐の青年よ、共に手を携へて國家のため吾人同胞の共存共榮のためにキリスト、佛陀、マホメットの如き固き信念を持つて警鐘を亂打しやうではないか。

光文社刊行の好評圖書

母と教師 のための 遊戯教育の實際	籠球(バスケット)の 新方法	弓百講 (百弓話道)	味覺極樂 (新樂食)	常小 理科學習帳	生活算術	エノカケル カタカナ ドウワトクホン	家庭 修身例話選集	學校 現代教育主潮
近刊	近刊	近刊	十版	參版	再版	再版	新刊	再版
田島校體編驗	安田弘嗣等著	東京新聞社編	東京新聞社編	東京高師訓導	田島校體編驗	童話大家 ヨシノヒロシ篇	東京高師教授 佐々木秀一序文	東京帝大教授 入澤宗壽著
定價一圓六十錢 (豫定)	定價一圓六十錢 (豫定)	定價一圓六十錢 (豫定)	送料一圓八十錢	送料二圓	送料四圓	送料六圓	送料一圓六十錢	送料一圓二十錢

東京東區橋本二丁目八番
電話三三八番

光文社
主社 東京 山手 池袋

東京東區橋本二丁目八番
電話三三八番



爲政家よ眼を開け

内憂外患交々來りつゝある 我國刻下の現状を打開せよ

古 和 口 虎 雄

凡そ上るには

二つの原因ある

冠頭でも言つてゐるやうに、
現今の社會は全く行き詰りの状態
である。行き詰りといふことは突
き當りでないから、その手段と方
法とを得なければ之れをよく脱
離して行くことが出来ぬ。
およそ物の亡びるには二つの原
因がある。内から生じて亡びるも
のと、外から來つて亡びるものと
この二つである。然して生物の亡
びるものは皆自分の力に亡びると

云はれてゐる。

之れを歴史に徴して見ると、平
家の倒れたのは源氏の方でなく平
家自身の力に倒れたのである。
足利の倒れたのも、織田の倒れた
のも、徳川の倒れたのも、皆それ
自身の力に倒れたのである。平家
の倒れたのは源氏の方でなく平家
自身の力に倒れたのである。足利
の倒れたのも、織田の倒れたのも
徳川の倒れたのも、皆それ自身の
力に倒れたのである。それよりも平
家、足利、織田、それ自身の亡び
る力が弱であつたからである。
舊家の亡びるも

内から亡びる

何所に少し許り風雨の時に倒
れた木があつた。假令すると、其
倒れたのがその風、その雨が倒し
たと云ふ事が出来やうか、實際倒
れた木、就いて見て見たら其根
本に白蟻がついてゐたとするなら
ば、早晩これは自己の重さによつ
て倒れなければならぬ運命にあつ
たもので、それを風や雨に歸する
ことは出来ないのである。
又諸君の近所に舊家の倒れた
のを見たであらう、その倒れる時

本紙創刊記念

讀者優待

◆◆◆ 毎々年購讀者に
◆◆◆ 記念の書籍贈呈
本紙創刊記念として大購読
會をやる豫定でありましたが
創刊早々購讀者の都合もあ
りますのでこれを他日に延期
し左に購讀者優待法を講じま
したから此後を逸せず御購読
下さる様願ひ上げます。

優待法

一、本誌六ヶ月分金購読會を
前金にて御購読になつた人
に限り
報知記者野村胡堂氏著

經濟銀行の話

文藝百辭典

の内何れにても御希望のもの
一冊を限り贈呈します。尚ほ
詳細 三十三頁にありますか
ら御覽下さい。
其外本誌は購讀者に送附し解
題交平氏、遊樂辭典として依
賴しました。就ては本誌購読
者にして遊樂辭典の贈附あらば

無料法律の
鑑定質問に應

じます。これは本誌購讀者の
みの特權であります。

常磐大衆社

腐敗し切つた

現代の社會

斯くの如く凡そ物の亡びる時は
外敵によつて亡びたるものは短
く、多く、總て内から亡びるもの
である。我が國の如きも日清、日露
日韓の大戦争をしたけれども皆
この外敵に對しては勝利を得て居
るのではない。これは國民が一
致協力し、外敵に對つて総力であ
るが現在のやうな總て行き詰りの
状態では外敵にはいくら強くとも
内患によつて倒れるやうなことが

不平不満の聲は
全國に充滿

これは寧ろ〇〇許りでない。こ
の太く短く云ふ風潮は各階級を
通じて亘つてゐる。國費の取り
主の政治は年々國費の膨脹によ
り増税をしてゐるのに、軍役の不
正から生じて所の代價に對する國
庫の損失御償など云ふ厄介なも

國民よ醒めよ
猛然と起て

國民は今や私利私慾を考へてゐ
る時ではない。小利を捨てて大同
につくべきである。政治家も、學
者も、實業家も、農業者も、資本
家も、労働者も、若人も青年も、靜
かに考へて見るがよい。露國を
見よ、更に日本の内患を見て米國
英國などが支那に對して露牙を逞
しくして居るではないか。

銀行合併是非

安島重三郎

政府は銀行の合併を奨励してゐるやうであるが、本報でも御存知の如く、銀行の合併は、銀行界の再編成を促すものであるが、同時に、銀行の合併は、銀行の競争を減らすものである。銀行の合併は、銀行の競争を減らすものである。銀行の合併は、銀行の競争を減らすものである。



銀行の合併は、銀行の競争を減らすものである。銀行の合併は、銀行の競争を減らすものである。銀行の合併は、銀行の競争を減らすものである。

銀行の合併は、銀行の競争を減らすものである。銀行の合併は、銀行の競争を減らすものである。銀行の合併は、銀行の競争を減らすものである。

こうした現象が、銀行界のためになるか、どうか、今後の銀行合併の是非を決定する材料となる。銀行合併の是非を決定する材料となる。銀行合併の是非を決定する材料となる。

次號豫告

銀行合併の是非を決定する材料となる。銀行合併の是非を決定する材料となる。銀行合併の是非を決定する材料となる。

五月雨の感

本多はらき社長

題未定

星製菓會社社長 星一氏

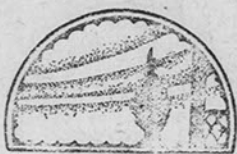
巨星新星

小名濱大敷網

問題の真相

銀行會社解剖

銀行合併の是非を決定する材料となる。銀行合併の是非を決定する材料となる。銀行合併の是非を決定する材料となる。



常磐地方に於ける労働運動

——經濟闘争より政治運動に移る——

横山 顯

支部の設立と小田炭礦の罷業

日本思想界に一種の小石が投げ込まれて、それが種々なる波紋を起し、その波紋が、労働運動の全盛に導いた。労働運動の全盛に導いた。労働運動の全盛に導いた。

労働運動の全盛に導いた。労働運動の全盛に導いた。労働運動の全盛に導いた。労働運動の全盛に導いた。労働運動の全盛に導いた。

労働運動の全盛に導いた。労働運動の全盛に導いた。労働運動の全盛に導いた。労働運動の全盛に導いた。労働運動の全盛に導いた。

労働運動の全盛に導いた。労働運動の全盛に導いた。労働運動の全盛に導いた。労働運動の全盛に導いた。労働運動の全盛に導いた。

謝は、示威運動に、徹底演説に、宣傳戰に、若い組合としては、實に立派な運動を組織し、持久する事一週日、さすが剛愎なる資本家ををして、全く降伏せしめたのである。

凱歌をあげた小中協会の爭議は、遂に暴亂なる騒ぎで終りに飛した。日比谷大橋の橋上にはその時、總同盟の所屬を離れ、素人久米を中心とする日本労働組合同盟を組織し、その所屬たる日比谷大橋組合は全力を警衛の斗争に注出し、騒ふことを三十分餘、警衛なる手段は、實に三十分餘、警衛なる手段は、騒ふ、驚愕の感なる手段、僧むべき卑劣なる警衛は、資本家の陣營から、巨額となつて労働者數千の頭上に飛んだ。

然し資本家の陣營は、巨萬の資本を掌握とし、その他あらゆるものに握れるにも、抑はらず、一日、一週と渡夜の過眠を辿りつゝあることに懸念し、苦肉の策として反動警察を組織し、暴徒の御用黨を、労働者の中から選出し、そして金力を

以て勞働者をして勞働者と争闘せしめ、歐米の歐を見るに至つたけれども、時代思潮はヒタ／＼と全無階級に打ち寄せて、そこから暴發するだけの階級と組織を以てする。

その階ひは豪族を極め、その階ひは常務勞働と歴史を餘り、この階ひは勞働者に幾多の生きた組織を産し、その階ひは、將來を下すに足る大い使命を感ぜしめた。その階ひはブルジョアと陳腐とプロレタリアートとの明かなる階級的意識を、驟然とした。

盤城と城の争闘は、階ひはなけれども、階ひに近い致命の損害を覺悟して、抗争しなれど、階ひはないう言ふことは、それを資本主義の落の過にある、階ひを豪族として、極端なる階ひを拘したる物質文明の階ひを無のうちに告白して止まなかつた。

炭礦の彈壓と
反動團體起る

臨ひは兩者相殺の事實裡に、各自の利害を放棄して遂に勞働者の團結が、下の階までの泥となつてと有してあるかを示して、遂に終結したのである。勿論そこには無産階級全體の生活苦痛、言ふに忍びざるほどの犠牲があつたことが、層層全線力を植つたと言ふことも言ひ得るであらう。日本資本主義の飛躍は煤炭まじける炭礦者の婦女の目に映る階級でなく全勞働者の運動表現の目撃として雄々しく無産階級のるの生みの苦しみをなめ乍ら勇氣と忍耐とを以て接受し、指導者だちを更に八山炭礦に向つて三度目弾壓を宣し、一敗地にまみれたれども勝つて四度目三山炭礦を襲ひ、五度目五山炭礦を襲ひ、遂に無産階級の窮民に於てその全力を確立し、現實の血脈に於て、無産階級

の立場を宣明したのである。

常磐の五大族は、反響の激しい勢力であらゆる階級の勢力を牽制するものと見て、俄に態度を一變し、表裏の勢を濫用、俄に密りに密へ、内外の勢力にも一足踏み入り、組内は合戦部の敵意をなし、組合外之れに對峙して、我族の統一機關として、日本境外組合常磐地帯聯合會を組織するに至つた。

今や嵐の前の静けさの如く、氣味悪い沈黙をうつて、既みちの杉にあるが、實は、各藩家本家は、焚毀の不安、加ふるに争議による致命的の難手のために、積極的手腕を講ずる餘はざる爲めにのみ、沈黙し、常磐各藩は經濟的難手に苦しめられ、力を盡めて忍びながらためひに力をつけてゐる。従つて常磐焚毀の階級闘争は、大の幕合までは餘程の時間があるものであらう……。

經濟闘争より
政治運動人

(15)

日常に於ける金無窮論の發見の點出は、各階級共素晴らしい勢ひを以て、一歩と躍進されつゝあるが、經濟論争は、既に、貴族家が、威風凛々行き語りの威がある。何故かなく、經濟的搾取を露骨にやり得る時代は、すでに老齡なる貴族家は、政治權力の點で直接搾取できぬ、間接搾取をなさんとし、亦巧みに關係をなさんとする。さされる、幾多の事實を見た無窮家は、金融の呼び懸として、經濟論争より政治論争に轉戦せよと一齊に叫びだした。貴族の輿論、それは無窮家の金融から生れ出でたことによつて、無窮家の意識の所産である限り、經濟論争との邊縁が、政治權力の點にかくれて巧妙なる搾取に踏み置かれることは、當然来るべき命である。と、我々としたとき、語りが置動はに來ると言ふ事を知つて、彼らに貴族の脚下に塵を忍ぶことが出来ないと言ふ現實を見たとき、我々階級が政治へ政治へ

と叫び出したことは、當然招来すべき事であつたのである。谷無敵は黨が二三に分れて、黨々と重ぶ黨をあげた、我が常磐黨の界にも日本政黨黨部が生まれ、昭和二年七月二十日、平野大藏に日本境夫組合が、幹事部組織の召集を行ひ、日本政黨黨部を支持すべき條件を附するや、瀧場一教、黒田千鶴、日本政黨黨部が、日本政黨黨部として、書記すべし、重ぶ黨は、花はしく、金銀池を際へ、重磐黨の二重黨を降ふにして、敢然と兩黨を襲つたのである。

昨年の總選舉に
縣議戰へ進出

常磐黨三萬の票數者は、總選舉に、政治的聯合が、一般に於て、握手しなれば、そしてその擲出に、事の、敵の、如き、敵のものに、重磐黨の、進し、達成の、目録まで

は、結束を強調しなければならぬ。い事に目醒めたとき、凡てが、政治環境へ、政治闘争へと意識づけられたのである。

九月議會の選挙に於て、常磐地方聯合執行委員会は、福澤直雄を立候補した、無名の人、岩崎坑夫上り、夫れが経営謀議の候補者であつた。常磐鐵の空氣は天に沖し、政友、政友の二政黨に對立して力なき事、福は敗れたといへば、謝罪なる票數、七百數十を獲り得たのである。その福ひは、政治の弊害たる選挙費が、如何に立憲政下にして、腐敗しつゝあるかを教へたのである。

其福ひは法治腐敗としての、また立憲政下の腐敗としての權利行使が如何に重大性を有するかを教へたのである。福ひは、既成政黨が全無階級の總意を無視し、無階級全體を無視した政取を描き、階級しつゝある過去、如何に大いにか教へたのである。常磐の腐敗者は政治的罪人と。

本分の組織とを有せざらうために、腐敗に終つた苦い經驗をなめた大なる意義は、腐敗のそれよりも、更に更に大きい未來への、前途へ、の教訓をなしたのである。

普通選挙、それはその表裏一體と裏面觀と側面觀とに越えることの出来ない、跳ぶことのできない大きな矛盾と、欠陥とが含まれてゐることを發見したとき、矛盾しないものを發見すると共に、更に無意味な失敗を感ずるに至り、政治への失望的、強硬的態度に於て、政治への無能競争が、達成までの段階の過程に於て、重大性を帯びてゐるかを痛感せしめられたのである。

勞働者の團結
既成政黨打破

幾多の缺點に對し、幾多の受難を甘んじた黨派、腐敗の腐敗者は昔々第二回の衆議院議員選舉に直捷とした態度で臨み、然れ共無数の經濟的狀態の下に苦吟しつゝある窮乏地帯聯合會も、日本労働黨

城支那も、獨り立つて補をなす能はずして、中立候補者を擁護するの止むなきに至つたのである。其の源を尋ねて、選挙権の叫びをあげしその選挙権は無敵にも既成政黨の毒牙にかけられたのである。

我々の時代は、我等が創造するより外に道がないのである。赤いふ……今や萬國の窮民を救ふの體裁は、新しい感奮を以て無産階級全體の同志に向つて、強調すべきである。

三階級等が叫ぶ……我等は生れたり、我等は今や育ちつゝあり、我等はやがて、我等の窮乏すべき時代を現實すべきである。

我々が貧乏の窮民は、彼等が、彼等自身として、何處に行き何處をすべきかを知つた。資本家の窮民に向つて闘ひは宣せられた既成政黨に向つて、剣は抜かれた。

斯くてその窮民、その終極は、唯物史が指示する如く新天地を建設するか否かは吾人の預かり知るところではない。

我々の時代は、我々が創造するより外に道がないのである。赤いふ……今や萬國の窮民を救ふの體裁は、新しい感奮を以て無産階級全體の同志に向つて、強調すべきである。

大禮博覽會 餘りに貧弱な 茨城福島 ——一記者

東京上野で開館中の大禮博覽會、其の賑はひは、東京の賑はひに比し、餘りに貧弱なものである。其の故は、東京の賑はひは、東京の賑はひに比し、餘りに貧弱なものである。

もさうした感じはするが、博覽會の出品は、東京の賑はひに比し、餘りに貧弱なものである。其の故は、東京の賑はひは、東京の賑はひに比し、餘りに貧弱なものである。

東京上野で開館中の大禮博覽會、其の賑はひは、東京の賑はひに比し、餘りに貧弱なものである。其の故は、東京の賑はひは、東京の賑はひに比し、餘りに貧弱なものである。

器は、東京の賑はひに比し、餘りに貧弱なものである。其の故は、東京の賑はひは、東京の賑はひに比し、餘りに貧弱なものである。

平町では校舎の都合だらうが商業學校と小學校と校舎をとりかへた、大きい生徒が八釜しければ小さい生徒も八釜し、同じ八釜しのなら小さい方を靜かな所へ。

餘り無慈悲

平町では校舎の都合だらうが商業學校と小學校と校舎をとりかへた、大きい生徒が八釜しければ小さい生徒も八釜し、同じ八釜しのなら小さい方を靜かな所へ。

茨城新 村

兄弟村の記

生天目健三

知事がわざ／＼その總務課の狀態を觀察に出かけて行く。若い女が適々と、苦惱に悶える其の身の振りを眺めて、何かな良き光明をと相談のため家出して尋ねて来る。

さては、女性總務課に就任の的となつて居る「出家」其弟子の作、倉田百三氏が、藤澤より遠く來遊する。其の中越人難、宗教、或は「生活者」「大團圓」等の大體に、その説明や、澤田、組織、總務課の詳細に、其の記者が觀察される。

知られ、世人に興味を持たれて來たのが、今か遠くやうとする此の「兄弟村」である。

手には可成りの貯蓄で、瓦斯エネジ

ンのは、東京の賑はひに比し、餘りに貧弱なものである。其の故は、東京の賑はひは、東京の賑はひに比し、餘りに貧弱なものである。

活を得るまでに、開拓者達が何れ

一、兄弟村はどうして生れて來たか。それよりも先づ、兄弟村と云ふ言葉を聞く、語は「新しき村」を思ひ出すに違ひない。

又なくならないのが自然です」と今日の社會の不正の抜け難さを指

癡し、痴して、其處で
 お互に助け合ふ生活、他人を不
 幸にさせないで自分か幸にせ
 れる。否、他人が幸福でないとい
 分が幸にない生活」の必要
 がある事を主張し、**膽識共榮共産**
 の相互扶助の態度を主張した。そ
 して此の主張、即ち新しい社會を
 招来すに當てて金たのが日に向
 「新しき村」である。
 「しかし何ら、此の新しき村」は
 武者小路氏が聲明し、師氏の一手
 取巻かどぶかに決してそうではな
 い。既に狂歌者が、實行がある
 英のロバート、オウエンこそ其の
 人である。オウエンは「社會改造
 の第一歩は勞働なる社會環境を
 改觀することにある」と考へ、且
 つこれを實現すれば直に理想郷が
 現出するものと思つて、英農村土
 に於いても、又彼には新大國の米
 國に於いても、**彼の考へた理想郷**
 社會を建設する實驗をやつてみたが
 それは何れも成功しなかつた。そ
 れは彼があまじい**人性を樂觀**す

•

ざたことも、社會進化の理法を無視したことに因る當然の結果である。而して此の事は武骨小路氏にも當はまると思ふ。

三

だが然し、此の兄弟材の生立ちを龍氏の親氏との多少の懸きを無異にして居る。兄弟材を生んだ人は龍かといへば、それは龍孝三郎氏である。氏も若い時は、當時やうやく播磨に來つた自然主義、個人主義、天才主義の時代思潮に魅せられて、一世の偉人ならん事を馳に期して、一高の文藝に情を置いたものであつた。

しかし龍孝も道理を探究して止まない此の若き思想家は、眞實な自己を貶するまでに、女はあきらめられず、右に、左に何ら願ひし度き開を續けて行つた。そして最後につかひだしたのは「土の愛」と兄弟の愛」であつた。かくして、氏はやうやくにして「ふるさど」にたどりついた。それは

丁度、一高の三年の時である。「ふるさと」それを心のおちつ
き處、身の上せ處と追慕せずさま
か。そんな定處が下され得るだらう
か。そして「ふるさと」「ああ
ふるさと」「何と云ふなつかしい、
温かみのある言葉だらう。實にそ
こには、太陽の光りと、雲と真心
の三つの心と、悪みか、どんなに
強く光つて、どんなにあつくおか
れてあつたか上。

これは常に流儀する氏の言葉で
ある。

嚴辭と祈りとに充ち足らひる心
を掩へて、ふさふさに立歸つた氏
の其の後の行動には目撃まされ
た。今の兄弟村にある塙野を拓
り開いて五歩、六歩、七歩、八歩
近く、二、三畧や、五畧に肥沃み
に行く。或は野築を作るに要する馬
糞を糞に作るに要する馬糞を糞に
た氏の異常な努力に、たまたま感
服して、其の尊き使命に参加する
青年が現はれた。

先づ、慈一に加はつたのが、氏の大兄盛太郎氏である。それに現に氏の妹嫁となつてゐる藍家の三正三氏、昭和時代の戦死若井三氏、それに目下田舎の經濟安論に居る五洲新聞の影があつた。勝つてゐる人は何れも兄弟衆の大敵に推かれて敵艦と斬りの中にあつた。朝まだほの曙の中に起き出で、一人が縫衣のまゝ、圖の前を焚きつけながら、口を曲げて出る。清美歌をうたへば、一人はまた出る。中てに和す。この露に目覺れた他の者も、直に庭に下り立ちて、黎明の空に向つて祈る。八瀬が吹き荒ぶ中に觀へず、勢威の湧いて來ては、内を濁を分けたつて呑み、空を感嘆の露と光明をそのの如き露であつた。

爾來、春風秋雨の十數年を經過し、今日では經濟の力でも、磨礫並にされて來たやうであるが、然し附置の住處には此の人達が仕事がさ

つばり判らぬらしい。何にしるべ
の集のやうな噂をした、エギゾ
ツクな若者が牛を引いて、侮へ
みに行つたり、妙な機械を買
來てはそれ百姓したりするので
あるから素朴ではあるが、無智な
彼等にしては無理がないかも知
れない。

それで橋氏がデナム・マークや英
國等の露露憲法を脱讞へ消費
組合や生産組合を作つて彼等、利
してやらうと努力しても一向理解
がないといふが、吾國の農民の現
狀としては此處らが如何かも知れ
ない。

露露樺太の露露は大部分亡た。
だが今は露露の露露太郎氏は加は
り、橋氏の弟の露露吾氏も流入り
筑後縣の瀬江幸江夜雨氏の露露吾
露露も歸て居る。其他二三の露
も加はつて居る。露露三氏の妹さ
んにあたる露露子露露は露露露露を幸
へて今は女子師範に就能をとり
得て、露露露露を設け可露露
市露露の子供達を露露露の露露へ導い

今後茨城縣の
政界はどう動く

水城學人

て居る。そして毎秋兄弟村手籠で市内に演奏會を開き、一觀に公開して郷土藝術の普及につくしてゐる。此の外兄弟村の仕事やその内容、或は經濟狀態等々あるが茲に擧げしやう。斯うしたものの存在が新しき社會の招來と何うい

ふ關係にあるか、それこそ興味ある問題であるが、それは此處言ふ可きでなからう。謔問記を書く機りであつたが、筆が剛くなり隨みづらくなつたのは何とも申譯ない。終りに兄弟のよき生長を祈つてゐる。(一九二八、四、一〇)

聖城^{ハルビン}は由來^{ヨウライ}政友會^{セイユウカイ}の盛^{シゲ}なり士
 地^シで、その結果^{ケツカ}は政友^{セイユウ}が國權^{コクケン}に
 走る事もある。國會^{クワイ}等^{トウ}に見るも四十
 十一^{シヨウ}一^{イチ}の議員^{ギイン}中^{ナカ}約^{ヤク}三十^{サン}は政
 友^{セイユウ}黨^{トウ}と云^{イハ}ふ程^{ほど}で正副議長^{セイフウギヤシ}は勿^{もちろん}
 論^ロの事^{コト}でも彼^{かれ}んでは政友^{セイユウ}黨^{トウ}の押
 し進^{しん}め、或^{ある}時は宇野^{ウノ}浩^{コウ}次^ジ郎^{ロウ}氏^シの擬^ぎ
 き友友^{ユウユウ}知事^{チシ}が現^{あらわ}はれて、その權^{けん}
 の限^{かぎ}りを盡^{つく}した事もある。然^{しか}しな
 がら時代^{エポカ}は何^{なん}時^{とき}迄^{まで}もさうしたわけ
 にも行^いかず、そうく政友^{セイユウ}黨^{トウ}が盛^{しげ}

暗しかけたやうに思へる。昨秋の
靈遊以來、政臣は艦にその勢ひを
得て來た。明か靈遊の靈遊艇に見
るも、政臣は三空、政友九空と豫想
されたものが、靈託とんや、政臣五空
の優秀な成績を見た事は未だ會て
見ない事である。斯くした所から
思へば、政友は次第に政臣に靈力
される隙がある、そこで政友は
でも一方ならず焦熱の氣味である
が、何政臣が……と露をくもつて居

る。扱て斯うしや、折柄小久保、坂南翁が勸進に洩れた事は、親政友會に一大打撃を蒙つた事とも見られる。何となれば小久保氏は親政友會に於て、虎溪の津、鯉山翁と權望んで、其權を稱せられた人であつたが、津氏付きに勸進となり、小久保氏は、虎溪、鯉山に於て、死すや、勸進となる可きものとも信ぜられて居た。斯が思ひに附いては、勸進をした小久保氏の勸進に關しては、親政友會は全力をあげて運動を盡したものであつたし、小久保氏自身も自信のあつた事と思される。政友會の諸氏は、坂南翁慰撫に努めてゐるらしいが、氏は元來野心を保持したと云つた點子で済まして居る。然れど、香取節作氏にゆづつて居る。然れども、其間の消息は類はれる事だ。その後、香取氏が勸進に倦み、たゞも敗戦してしまつた事は、既に書いた事だ。定め、小久保氏は、もどきシりかんだであらう。

ひだらけ、所へ持つて行つて政敵が次第に有利なる立場に向つて来た所から見ると將來政敵は益々有利なる地位に並んであらう。斯うした事、要するに政友會の内輪もめとも見る可き内中、來朝派の争ひが餘蘊なくつて居るらしい。今後の政敵は實に内田信也氏の行動如何に依つて安危が分れるとさへ云はれて居るが左様かも知れぬ、内田氏の行動は實に政友會にとつて重大なる使命がある。一、將來敵進す可きと見られて居る政友會は支部幹事に神永千代吉氏が前幹事たる小峰清男氏の後を受けて黨體擴張に努めて居る。過渡の總選舉の好成績も氏の力大なるものと云はれてゐるが左様かも知れぬ。政友會の勢力たる所の政敵は土浦にあつて警視大に之れ努め小峰氏は總選舉に然も第二區より最高票で當選した久しく風靡の狀態にあつた海老澤盛太郎氏や中嶋俊次氏等も此を得

明治天皇御製

春 雨

春雨のふるにつけても民草のうるほはむ世をまつ思ふかな

民戸煙

事有るにつけていよく思ふかな民のかまとの煙りいかにと

雨夜述懷

民草のうへに心をそゝくかな雨しつかなるよはの寢覺に

て代議士と云つた。これ等三人の代議士が如何に政友會のために活躍するかは其のものとされて居るが何れも代議士たるに於ては一瞬も抜いて居る。それだけ政友會の勢力に力を注ぐであらう。

兎に政友會の勢力は政友會には策士があり政友會には策士に於て政敵に一步を脅するの感があるから各々政友會は内田の勢力に依るであらうが内田、山崎の勢力が大膽とするに於ては又山崎、中島あるとすると山崎氏は常に黨體にあつては容易に思ふまゝの活動も出来まいから困るであらう。然しながら黨の組織に於ては政友會は餘蘊なく固なるものがあるから政友會の思ふやうには此の牙城は破れないかも知れない。要して今後の政友會の果はどう動くか……。

我國の現状より見て 熱血政治家の出現を希望するや

二 本社の質問に對する諸名士の回答

其出現を熱望す

我が國の現状は混沌として何ものかを欲してゐる、偉人出でよとの叫びは全國津々浦々まで響いてゐる、此の秋に際し本社は各方面の名士に對し「貴下は我國の現状より見て我國に於てもムツリニの如き熱血政治家の出現を希望せらるや」との意見を徴したる所を、如き回答に接し、本社に對し御芳志を感謝します。

熱血政治家出でよ

言文社 西村文則氏
空氣のけたたつた國のやうな現代の政治家の行動を讀むと、噴火山のやうな熱血政治家を自然望まざるを得ざる也。

偉人出でよ

茨城縣院長 鈴木剛次郎氏

必ずしもムツリニの如きとは申しませぬが大政治家出で、難局に立てる我國の政界に光明あらうしめたい、何事にも人にあり、大偉人の出現を熱望して止まぬ。

我輩は絶対反對

法學士 仲里文平氏

一、第二のムツリニの出現我輩は絶対に希望しない、現在の我が國情に於てかのムツリニ式の施設經營は無用であり寧ろ危機を將來に胎むものだと思ふ。
二、日本は伊太利ではない、煙も遠へば關税も遠ふ、そこへインナーナショナル臭い種子を植付けてなんぞの種に實が結ばう三、なる程今不景氣の嘆きは深酷であり行き詰りの叫びは高い、然し我輩は我が三千年の國體の尊貴榮光を噴火山上に曝してまで我が個人的幸福を充たさうとは

は思はぬのだ。

英雄の出現希望

福民友主筆 田子熊吉氏

福民友主筆の現代政敵の空氣を打破すべく奇矯無類なる無黨派の主張を打ち立てて我々にムツリニの様な斷じて事を行ふ英雄の出現を希望します。

其出現を要求せず

福民友主筆 大内一郎氏

ムツリニの如き人の出現を要求せず、而して吾が國はこれに許さず。

英雄出でよ

福民友主筆 佐藤 稔氏

過渡期には英雄の出現が必要だそれは英雄の力が過渡期に處するの道を知つてゐるからである國民に不安のみを與へつゝある現

にはあらなかつた、彼は昨の夜に...

瑞西に行つてからの彼は、...

瑞西に際しての彼の活動は、...

瑞西に際しての彼の活動は、...

トはフタタ内閣に向つて「議會...

トはフタタ内閣に向つて「議會...

村の問題募る

諸君の地方に起つた問題、...

青年社員募る

青年で私共の仕事に興味した方...

金百圓贈呈

瑞西に際しての彼の活動は、...



春宵雜記

西村文則

常陸の人には「勿來ノ國」...

瑞西に際しての彼の活動は、...

瑞西に際しての彼の活動は、...

瑞西に際しての彼の活動は、...

大衆座樂屋話

人の話題

赤津内氏 菅波吉氏
内田傳也氏 小田吉次氏
吉田兼吉氏 莊司又男氏
川村源市氏

赤津博士の性典

赤津博士は、近頃の文壇に於ける、最も多量の著書を出した一人である。その著書の中には、『性典』という一冊がある。これは、『性典』の著書により、一層その著者の名が知られるようになった。この『性典』は、博士の著書の中でも、最も重要な一冊である。博士は、この著書の中で、人間の性について、詳しく論じている。博士の著書は、どれも、その著者の深い知識と、鋭い洞察力が、よく表れている。博士の著書は、多くの人に読まれ、多くの人に愛されている。博士の著書は、私たちの生活に、大きな影響を与えている。博士の著書は、私たちの人生を、豊かにしている。博士の著書は、私たちの未来を、明るくしている。博士の著書は、私たちの希望を、実現させている。博士の著書は、私たちの夢を、実現させている。博士の著書は、私たちの人生を、豊かにしている。博士の著書は、私たちの未来を、明るくしている。博士の著書は、私たちの希望を、実現させている。博士の著書は、私たちの夢を、実現させている。

内田次官の廣告

今、時めく、赤津博士の著書、内田次官の廣告、が、多くの人に読まれ、多くの人に愛されている。この廣告は、博士の著書の中でも、最も重要な一冊である。博士は、この廣告の中で、人間の性について、詳しく論じている。博士の廣告は、どれも、その著者の深い知識と、鋭い洞察力が、よく表れている。博士の廣告は、多くの人に読まれ、多くの人に愛されている。博士の廣告は、私たちの生活に、大きな影響を与えている。博士の廣告は、私たちの人生を、豊かにしている。博士の廣告は、私たちの未来を、明るくしている。博士の廣告は、私たちの希望を、実現させている。博士の廣告は、私たちの夢を、実現させている。

海貴來の川村君

海貴來の川村君は、近頃の文壇に於ける、最も多量の著書を出した一人である。その著書の中には、『海貴來の川村君』という一冊がある。これは、『海貴來の川村君』の著書により、一層その著者の名が知られるようになった。この『海貴來の川村君』は、海貴來の著書の中でも、最も重要な一冊である。海貴來は、この著書の中で、人間の性について、詳しく論じている。海貴來の著書は、どれも、その著者の深い知識と、鋭い洞察力が、よく表れている。海貴來の著書は、多くの人に読まれ、多くの人に愛されている。海貴來の著書は、私たちの生活に、大きな影響を与えている。海貴來の著書は、私たちの人生を、豊かにしている。海貴來の著書は、私たちの未来を、明るくしている。海貴來の著書は、私たちの希望を、実現させている。海貴來の著書は、私たちの夢を、実現させている。

菅波君の若返り

菅波君の若返りは、近頃の文壇に於ける、最も多量の著書を出した一人である。その著書の中には、『菅波君の若返り』という一冊がある。これは、『菅波君の若返り』の著書により、一層その著者の名が知られるようになった。この『菅波君の若返り』は、菅波君の著書の中でも、最も重要な一冊である。菅波君は、この著書の中で、人間の性について、詳しく論じている。菅波君の著書は、どれも、その著者の深い知識と、鋭い洞察力が、よく表れている。菅波君の著書は、多くの人に読まれ、多くの人に愛されている。菅波君の著書は、私たちの生活に、大きな影響を与えている。菅波君の著書は、私たちの人生を、豊かにしている。菅波君の著書は、私たちの未来を、明るくしている。菅波君の著書は、私たちの希望を、実現させている。菅波君の著書は、私たちの夢を、実現させている。

炭礦の主小田君

炭礦の主小田君は、近頃の文壇に於ける、最も多量の著書を出した一人である。その著書の中には、『炭礦の主小田君』という一冊がある。これは、『炭礦の主小田君』の著書により、一層その著者の名が知られるようになった。この『炭礦の主小田君』は、小田君の著書の中でも、最も重要な一冊である。小田君は、この著書の中で、人間の性について、詳しく論じている。小田君の著書は、どれも、その著者の深い知識と、鋭い洞察力が、よく表れている。小田君の著書は、多くの人に読まれ、多くの人に愛されている。小田君の著書は、私たちの生活に、大きな影響を与えている。小田君の著書は、私たちの人生を、豊かにしている。小田君の著書は、私たちの未来を、明るくしている。小田君の著書は、私たちの希望を、実現させている。小田君の著書は、私たちの夢を、実現させている。

は僕の足下にも及ばんさ」と豪語してゐる。誰か黙つてゐる所を見ても、全く傳へるのかも知れぬ。

吉田君の百萬圓

吉田君は、近頃の文壇に於ける、最も多量の著書を出した一人である。その著書の中には、『吉田君の百萬圓』という一冊がある。これは、『吉田君の百萬圓』の著書により、一層その著者の名が知られるようになった。この『吉田君の百萬圓』は、吉田君の著書の中でも、最も重要な一冊である。吉田君は、この著書の中で、人間の性について、詳しく論じている。吉田君の著書は、どれも、その著者の深い知識と、鋭い洞察力が、よく表れている。吉田君の著書は、多くの人に読まれ、多くの人に愛されている。吉田君の著書は、私たちの生活に、大きな影響を与えている。吉田君の著書は、私たちの人生を、豊かにしている。吉田君の著書は、私たちの未来を、明るくしている。吉田君の著書は、私たちの希望を、実現させている。吉田君の著書は、私たちの夢を、実現させている。

莊司君は偉い

莊司君は、近頃の文壇に於ける、最も多量の著書を出した一人である。その著書の中には、『莊司君は偉い』という一冊がある。これは、『莊司君は偉い』の著書により、一層その著者の名が知られるようになった。この『莊司君は偉い』は、莊司君の著書の中でも、最も重要な一冊である。莊司君は、この著書の中で、人間の性について、詳しく論じている。莊司君の著書は、どれも、その著者の深い知識と、鋭い洞察力が、よく表れている。莊司君の著書は、多くの人に読まれ、多くの人に愛されている。莊司君の著書は、私たちの生活に、大きな影響を与えている。莊司君の著書は、私たちの人生を、豊かにしている。莊司君の著書は、私たちの未来を、明るくしている。莊司君の著書は、私たちの希望を、実現させている。莊司君の著書は、私たちの夢を、実現させている。

創刊記念として讀者に贈る二大書籍



それ銀行があふない、預金通帳を出せ、印形は机の抽斗だ、みなりまかまはね、あはて、銀行の前に入らね、銀行の前には、一帳簿の整理につき、向ふ一週休仕事、一帳簿の整理、チエツ、残念だといつても、最う悪い、本書、こんなうらみが、銀行のよい悪いの、見分ける法、が、利用法を詳細に書いたもので、之を國民の一讀を要する、昭和二年五月發行、四六版、二百七頁、定價一圓、箱入願る美本。

手紙——といふと何だ手紙かと軽くあしらはれてゐるが、さて一片の書簡紙とつていざ用件を書かうとすると、中々骨が折れるものであることは、われわれが現在痛切に感ずる所である。本書は一部より六部までに分類してあつて、大衆木堂、石丸椿平、五十嵐矢一、徳富蘇峰、高山樗牛、大町桂月、其他有名な人々の文例をあけてある。本書は昭和二年十二月發行、四六版、二百二頁、定價二圓三十錢、箱入願る美本。

銀行の話

販賣の御用は、本社が東京、水戸、平の三ヶ所に事務所がありますが、當分の間、本紙直接販賣は平の事務所、取扱ふことにしました。御注文は左記宛に願ひます。

常磐大衆社
電話五一五番

安い安い

本誌六ヶ月分の購読料金二圓也を前金で拂込むと、本誌が一冊無代で貰はれるのだから、まるで六ヶ月分の購読料はタダで貰ふもの同然である。然し無制限に上げる譯にも行かぬから、双方何れも五百部限りとする。但し御希望のものが出揃つた時は他のもので我慢して頂きたい。肝心の再び来らず、切られぬ即刻御注文下さい。

本誌御注文に就て

本誌は東京、水戸、平の三ヶ所に事務所がありますが、當分の間、本紙直接販賣は平の事務所、取扱ふことにしました。御注文は左記宛に願ひます。

するのみで見るべき等の仕事が認められないものであります。町村役會や何等の仕事が認められませんがこれは郡廳廳長の負擔金が認められ多額にして之れを提出するためにも強引に眞の事實がしたくともなし得ない實狀にあるのであります。然し我が石城郡役會も當然として更給一戰費東北デマークの理想實現に努力するといふ事ですから茲に今二三年の時を費して完成すべきを見たいと思ひます。

農會は無能の會

磐田銀行頭取 江尻博孝氏

村農會及び郡農會は事實上無能の會たるを以て廢止希望に有之候

郡農會は無用

下山 嘉一郎氏

町村長會は改善して之れを助長
させる要があると思ひますが、郡
農會は全く無用の廢物だと思ひま
す、但し失業者救済といふ社會救
済策上より見れば存在するも取て等

交へないと思ひます。

郡農會は廢止

石城郡 生田目 耕氏

村農會に其儘にして郡農會は全
く廢止すべきものなり

其仕事を疑ふ

小名濱町長 鈴木 榮氏

郡農會も村農會も有意義の活動
をなさげ存在に如くはないと思ふ
が、今日の如き農會を始め村
農會等の状況にては所をなさんと
してゐるかと疑はるゝ。

必要な機関

滑ノ耳ヲ耳

私は往々都知事と議會停止の議を聞きますが、それは要するに議會なるものと實際を御存じなき人々を唱ふることで恰も人慾に譬へて申せば「人が口があるから食物を喰ひ金もかかるから口をなくした方がよい」と云ふ事と同じ議論で我々貴院の存在を意義あるしめぬの點に據れざる所手段の重要な機關であると考へてゐます。

農會廢止せよ

勞農部 山代吉宗氏

政黨會は、政黨會の政見を露明するものとしてゐるもので、「政黨の改良」を露明するのを目的としてゐるから現存に手配がないのだ、之れは實際的經費家と主事の政黨政策の忠實な執行となつて食費の運動を遂行してゐる、之れ等枝黨會は政黨會の會長は社長が支部主であつて、しかも之れ等は常にブルジョア的の學問の的で殊に政黨會議の様子を爭奪の如きは政黨財政の利權を争ひしてゐる、此意味で吾々は斷く當時の立憲から之れ等の廢止斷絶を叫ぶものである。

東電水利權延願

東京電燈會社では外債募集に關しての必要からして關島・日・樺川

其他の水戸藩を昭和五十年までの
期に延べ願を出した

平電氣の蘇生

大瀧電氣の閉歇は伊東知事の廢
院により間接に解決したので小田
坂鐵道社長伊原仲八氏は明四年十月
二十五日までの工事延期を知事に申
議したが無許可さるべく之れに
より平電氣（公社）は蘇生した。

吉野氏に

破産申請

吉野周太郎氏は陸奥館を代表したる醒睡に於ける財界の巨頭にして長者・議員であるが各種事業の失敗から遂にボロを出し、堂々たる氏の邸宅は各万圓の債権より充たせられたるが遂に喜美山莊攫えをされてゐるが遂に喜美山莊礦から破産の申請をされた。然し、財界の巨頭誇りでなく、破産の重鎮であるだけ之れが破産の具供されてゐる。醒睡あれば其整理容易に拂拂すべくも思はれぬ。

民衆を離れた
政友會の立直し

こゝにも行き話りの悩みか

政友會は其政策が何時も感衆とシツクリ合つてゐない、政友會と感衆とは常に一種關係、新しい教育を受けた其息子位位の相違はあらう、今度の總選挙に幸甚は天賜したものはその結果である、茲に於て政敵の間にはその隙隙に就て解きがついたものは、公務廳監理事會に於て左の案を斷念する事とした、これが其陰謀までは相當當時に要するだらうが此所までに至つたことは政友會の進歩であらう。

甲類

特別委員に付託すべき事項
第一 産業立國策の具體化
最低五ヶ年を一期とし輸入超過
より漸次出超に轉ぜしめる目標
に依る

(イ)富田調査機關の統一(ハ)滿鐵及び東其の經濟的機能發揮の方法の改訂(ヘ)北海道、樺太拓殖計畫の達成(ニ)各種基礎的産業の保護獎勵(ホ)蠶桑政策の確立(ヘ)交通政策の確立(水)航空、鐵道道路に關する政策の統一改善

第二 稅制整理

(イ)地租營業收益稅の委譲(ロ)關稅の改正(ニ)家屋稅營業稅雜種稅其他地方稅の改廢(ヒ)煙草その他專賣制度の改正

第三 金融制度の改善

(イ)銀行制度の改善(ロ)不動產、水產工業金融の改善(ハ)農村金融(ニ)中小商工業並に庶民金融の改善(ホ)金融機關檢查制度の改善

第四 社章立法

乙類

各部に配属し、研究調査すべき

- 第一 議院制度の改正
(イ)貴族院令の改正 (ロ)衆議院議員選挙法の改正 (ハ)婦人参政権年齢低下、罰則改正等 (ヘ)植民地における選挙制
- 第二 行政組織の改善
一、各省の組織分令
二、府縣市町村の統合
三、文官任用令の改正
四、軍部大臣文武官併用制

五、地方分權
(イ)知事公選(ロ)市町村長直接
選舉制(ハ)自治體の產業化並に
權限擴張(ニ)市町村において專
賣品の販賣の取扱(ホ)市町村吏
員の優遇

第三 法令の社會化
第四 農村振興
第五 肥料政策の確立（ロ）穀價の安定（ハ）絹糸價の安定（ニ）林業政策の確立（ホ）農村の工業化
第六 國營事業の創設改廢
第七 教育制度の改廢
第八 內容の改善劃一（打殺（ロ）教育法令の法律化（ハ）教育機關の整備（ニ）修業年限の延長（ヌ）義務教育（短學專門學校）（ホ）教育の機均等（ヘ）教授方法の科學化（ト）政治教育の普及發達
第九 對外經濟政策の確立
第十 滿蒙政策（ニ）對露政策（ハ）移民政策
第十一 燃料政策の確立

×

×

×

意氣と信念に生きよ

古和口君の出陣に餞す

福島縣議員 鷺 清昇

我が國田舎の生める古和口君が、今度「常陸大衆」を發刊される事になった。...

青年よ 赤津生

「人生五十年、七十の壽を全ふするは古來稀なり」といふ、人生意氣に感してなすべき時に...

「人生五十年、七十の壽を全ふするは古來稀なり」といふ、人生意氣に感してなすべき時に...

力や實に大なりといふべきである。青年よ、人間は食ふといふ以外に...

ラチオ 自轉車

福島縣平町駅前 高野商店 電話三六番

岐路に立てる 磐城青年同盟會

將來如何なる活動するか

「闘争はあらゆる事業の父である」と言つたが、何方に集つてある政治界、...

政治の道であつて政治的行動もあつた。...

云ひば自由主義的な政治的主張を持つた青年同盟會は、彼等の宣説と綱領に基づいて彼等の行動の指針とした、...

云ふなら所謂自由主義的傾向の軌跡を辿るものと見られる。...

祝 發 刊		
縣會議員 參事會員 鷺 清昇 植田町	縣會議員 古川 傳一 植田町	植田町々長 佐川龜太郎
植田町助役 小野 忠衛	植田消防組頭 勳八等功六級 坂本龜太郎	植田合同運送店 代表社員 北鄉 繁七
泉 村 小林 藏次	泉消防組頭 江尻 博孝	泉 村 上遠野定次郎

(順序不同)

▽入院隨意△ 性小外内 科兒科科科 院長 片岡 章 植田町電話一〇七番		森合齒科醫院 院長 森合 義雄 植田町 本町
山田屋別館 町 田 植 番八十百話電		和洋支那御料理 合 待 よ き う 夫 秀 瀧 (番〇二話電) 町 田 植
若松屋旅館 町 田 植 番三五話電		御 待 合 屋 勢 伊 町 田 植 番六五話電
常磐大衆定價 □普通號 金參拾五錢 六ヶ月 郵税金貳錢 金貳圓 ◇御註文總て前金に願ひます ◇御券代用一割増に願ひます ◇臨時増大號發行の節は特に 御断りのない限り前金中か ら其の代價を差引きします 昭和三年四月廿七日印刷納本 昭和三年五月一日發行 發行兼編輯人 古和口虎雄 印刷所 人 古和口虎雄 水戸市上市泉町一、一七一 印刷所 いはらき新聞社 印刷部 水戸市上砂久保四、六番地 發行所 常磐大衆社 支 東京市日本橋區龜島町 一ノ四二光文社ビル 電話茅場町五三八 社 福島縣平田町 電話五一五番		

祝 發 刊

登 錄 商 標

福 清 洲 磐

町 田 植
造 釀 吉 清 鷺
番 三 話 電

妻 稻

町 田 植
造 釀 家 本 川 古
番 六 十 話 電

館 本 屋 田 山

町 田 植
番 八 話 電

祝 發 刊

山 田 村
下 山 田 嘉 一 郎

平 町
諸 橋 久 太 郎

平 町
山 崎 與 三 郎

勿 來 町
赤 津 修 一

勿 來 消 防 組 頭
赤 津 庄 兵 衛

勿 來 町 々 長
大 平 陸 四 郎

山 田 村
秋 山 藏 之 助

泉 村
三 戶 源 太 郎

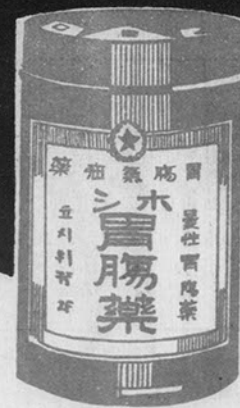
川 部 村 々 長
兒 玉 萬 平

(順序不同)

第 二 卷 常 磐 大 衆 每 一 月 一 發 行

昭和三年五月一日發行

水ニ胃腸藥



二十五錢
三十二錢
三十七錢

七十四錢
壹圓四十八錢

定價金三拾五錢
二郵
錢稅